

## 防衛的悲観主義尺度 (JDPI) の作成と信頼性, 妥当性の検討について

荒木 友希子 (金沢大学文学部)

キーワード: 防衛的悲観主義 (Defensive Pessimism), 尺度の作成

Norem & Cantor (1986) は, 学業達成場面において以下の3つの特徴を持つ学生の存在を指摘し, 防衛的悲観主義 (DP ; Defensive Pessimism) の概念を提唱した。①過去の学業成績が優れているにもかかわらず, 学業達成場面において常に非現実的に低い期待しか持たない。②失敗や最悪の事態を想定してあれこれ考え込み, 不安が高い。③その一方で優れた成績を維持している。従来の悲観主義とは異なり, この DP は肯定的なものとして捉えられており, 個人にとって最適な認知的対処方略を採用することがその人にとって最も適応的であることが証明されている (Norem & Illingworth, 1993)。

DP を測定する尺度として Norem (2001) の Defensive Pessimism Questionnaire (DPQ) がある。この尺度には DP と真の悲観主義を弁別するための判別項目がひとつ含まれている (項目内容「これまでの場面ではたいがい良い成績をおさめてきた」)。真の悲観主義は DP と異なり過去の成功経験を否定するという仮説に基づき, この判別項目に対して低い評定を行った場合に真の悲観主義とみなされる。しかし, 多くの DP 研究においてその弁別の基準は一貫していない。また近年 Norem は判別項目の使用を中止した (Norem & Illingworth, 2004)。その理由は, 米国の学生を対象とした場合, 判別項目の得点が高めに歪んで分布しているためである。米国では自己高揚動機が強く, 過去の成績に関して自己評価が高くなる傾向があると考えられる。しかし, 日本では自己卑下的帰属をおこなう傾向が強い。そのため, 日本で DP 研究を進めるには, 過去に良い成績をおさめているという認識をしているかどうかを確認する手続きは必要不可欠であろう。

日本では岩永・横山 (2004) や細越・小玉 (2004)

が尺度を作成している。しかし弁別方法として, 人格特性としての悲観主義を測定する LOT-R の得点, または, 判別項目1つの評定値でおこなっている。日本人を対象とした場合, DP と真の悲観主義者とを弁別する手法の精度を高める必要がある。そこで本研究ではこのような観点から妥当性と信頼性の高い DP を測定する尺度を新たに作成することをめざした。

### 【 方法 】

#### ◆項目の作成と検討

DP を以下の特徴をもつ概念として定義した。まず行動面の特徴として, (1)過去に似たような状況で良い結果をおさめていること, (2)これから行うことに対して入念に準備し努力すること, がある。これらは方略的楽観主義と共通した特徴である。認知面の特徴として, 起こりうる可能性のある(3)失敗・(4)成功の両方についてあれこれ考え込んで広く熟考したり, 心の中で何度も練習をしたりすることがある。これは DP が認知的方略であることを示す最も際立った特徴である。また, 真の悲観主義と共通する特徴として, (5)不安が非常に高いこと, (6)これから行うことに対して非現実的に低い期待しか持たないこと, がある。上記6つの特徴に該当すると思われる項目を6つずつ計36項目作成した。

これらの項目群について, 心理学研究者および大学院生5名に対して個別調査を実施し, 概念的定義との対応, 質問用紙における教示文や表現の不自然さについての確認をおこなった。その後, 大学生94名について集団調査を実施した。全体の分布, 回答の偏りなどの分析に基づいて主に日本語表現の検討をおこない, 計36項目を作成した (6件法)。

#### ◆手続き

調査協力者は, 地方の国立大学に在籍する日本人大学生729名。無記名方式による集団実施。

【 結果 】

記入もれのあったデータを除外し、695名(男性383名, 女性306名, 不明6名; 平均年齢19.64歳, 範囲18~35歳)を分析対象とした。

回答の極端な偏りがあった6項目を除外し、残った30項目について主因子法による因子分析を行った。その結果、第4因子までが固有値1以上の値を示しており、4因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度4因子を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった項目を除外し項目選定をおこなった。採用された24項目について再度因子分析を行った。Promax回転後の最終的な因子パターンをTable 1に示す。なお、回転前の4因子で24項目の全分散を説明する割合は47.96%であった。

次に逆転項目3つの値について変換し、下位尺度ごとにCronbachのα係数を算出した。悲観尺度は.89, 過去の成功尺度は.81, 成功熟考尺度は.77, 努力尺度は.71となった。また、得点分布について検討した結果、歪度は-.22から.07, 尖度は-.36から.02の範囲となった。すべての下位尺度において高い内的一貫性が認められており、得点分布はほぼ正規分布に近いことが示された。

この4因子構造を確認するため確認的因子分析をおこなった。その結果、GFI=.900, AGFI=.870, RMSEA=.074となり、4因子モデルの適合度は良好であった。以上の分析結果から、この24項目からなる尺度は高い因子的妥当性と信頼性を備えていると判断し、これを防衛的悲観主義尺度(JDPI; Japanese Defensive Pessimism Inventory)とした。

【 考察 】

項目作成の段階で予測した失敗熟考・不安・期待に関する項目がひとつの因子として悲観尺度に収束された。これらの項目はどれもDPおよび真の悲観主義者に共通して認められる特徴として定義していたため、この結果は本研究で定義したDPの概念とは矛盾していない。また悲観尺度以外の下位尺度に関しては、項目の作成の段階で予測していた項目がそれぞれの因子に収束した結果となった。

成功熟考を示す項目が成功熟考因子として独立し

た因子となった。これは、熟考因子および悲観因子がそれぞれ異なった関係を示しており、これらの因子が別々にもしくは統合して機能しているのかを検討する必要があることを指摘したMartin(1999)を支持する。DPは、真の悲観主義者および方略的楽観主義者と比べ、成功熟考尺度の得点が高くなると思われる。また、過去の成績尺度はDPQの判別項目に相当する。従来の尺度ではひとつの判別項目に関する評定値で判別していたが、JDPIでは4つの項目から判定することができる。真の悲観主義者は、DPおよび方略的楽観主義者と比べ、過去の成績尺度の得点が低くなると思われる。また、努力尺度は、従来の尺度には存在しない下位尺度である。過去の成績尺度および努力尺度は、DPおよび方略的楽観主義者に共通して認められる行動面の特徴を測定するものといえる。今後はJDPIのこのような弁別手法の妥当性について検討をおこなう必要がある。

Table 1. 因子パターン

	質問内容	負荷量	共通性
I. 悲観			
6	試験の当日に起こりうるトラブルについて想像し、あれこれ考える	0.48	0.31
8	試験はうまくいかない気がする	0.66	0.56
9	試験に失敗したら一体どうなってしまうだろうかとかよく考える	0.74	0.56
16	試験がもうすぐだと思うと、緊張して身体がこわばる	0.53	0.33
23	この試験で自分の目標を達成できないかもしれないのではないかと心配になる	0.76	0.56
27	試験の成績が悪かったらどんなに落ち込むだろうかとかよく想像する	0.75	0.59
28	この試験のときに何かよくないことが起こりそうで心配になる	0.74	0.52
31	この試験に失敗したら今後の進路にどのくらい影響するのか、よく考える	0.59	0.41
32	大丈夫だと分かっているけど、最悪の結果を想像してしまう	0.81	0.65
33	試験問題に目を通したとき、まったく分からない問題がたくさんあって茫然としている自分の様子が心に浮かぶ	0.64	0.47
35	試験に失敗したときのことはよくよく考えない	-0.46	0.25
36	私がこの試験で良い結果を残すのは難しいだろう	0.45	0.49
II. 過去の成績			
7	この試験と似たような状況で成功したことがある	0.59	0.40
13	私は重要な試験では失敗したことがない	0.71	0.40
18	今までは、このような試験では良い結果だったことが多い	0.88	0.74
34	これまでの試験では、たいてい優れた成績をおさめてきた	0.75	0.62
III. 成功熟考			
2	試験がうまくいく様子を想像し、あれこれ考える	0.70	0.50
4	試験で良い成績をとることができたらどんな気持ちになるだろうかとかよく想像する	0.74	0.52
12	試験に成功したときのことはあまり想像しない	-0.74	0.54
21	この試験で大きな成功をおさめる可能性がどのくらいあるか、よく考える	0.55	0.39
22	何のトラブルもなく試験会場にたどり着けた自分の様子が心に浮かぶ	0.53	0.29
IV. 努力			
14	失敗したときのことを考えると、自分はそうならないように入念に準備する	0.61	0.47
19	かなり前から十分時間をかけて試験の対策を練る	0.75	0.54
30	試験のために一生懸命努力するのは好きではない	-0.69	0.39